

全国学習交流集会 in 千葉

日時：10月11～13日
場所：千葉市文化センター等



ホームページ <http://chibarouren.jp/> メール chibarouren@axel.ocn.ne.jp

第 274 号 URL 版 2014 年 9 月 30 日

発行 千葉県労働組合連合会

〒260-0854 千葉市中央区長洲 1-10-8 自治体福祉センター

電話 043(225)5576 FAX 043 (221) 0138

発行人 本原康雄 定価 20 円

【1 面】

安倍内閣の息の根を止める決意で

千葉労連第26回定期大会

9月7日、千葉県教育会館にて開催された千葉労連第26回定期大会には、代議員、役員、来賓含め162人が出席しました。23人の代議員からの活発な発言により14年度運動方針がより深められ、全議案が満場一致で採択されました。14年度の新たな役員も選出されました。



参加者全員の団結がんばろう

今大会は議長団に船橋労連の廣木代議員、自治労連の斎藤代議員を選出。

松本議長のあいさつ【要旨別掲】の後、来賓の高橋全労連副議長、新日本婦人の会森田千葉県本部副会長、中央労働金庫の日高千葉県本部長、日本共産党の浮揚千葉県委員長から激励のあいさつがありました。

議案提案は、本原事務局長による14年度運動方針(案)、広瀬事務局次長による財政方針・予算(案)があり、新加盟組合の紹介、争議団の紹介がありました。

討論では、23人の代議員から活発な発言【要旨別

掲】がありました。

討論のまとめとして、本原事務局長より「今年の11月で千葉労連は結成25周年を迎える。これを踏まえ、来年の旗開きは、25周年を祝うレセプションにしたい。これを単に祝うということではなく、25周年を節目に、安倍内閣の暴走の息の根を本当に止めるという決意をもって迎えるようにしたい。そのためにも、秋のたたかいで、全労連や千葉労連が、安倍政権の悪政やさまざまな弾圧に屈せず立ち向かっていくというたたかいをつくり上げ、来春闘に向けては、新たな決意で、労働者の賃金、労働条件、さまざまな権利を獲得していくというたたかいを、みなさんと一緒に進めていきたい。」と総括総弁。その後の採択では全議案が満場一致で可決されました。

続く役員選挙では、立候補した候補者全員が信任され新役員が選出されました。「許すな!『戦争する国』づくり、労働者使いすて社会 切り拓こう! 7万千葉労連へのたしかな前進を」のスローガンを確認し、団結がんばろうを三唱して閉会しました。

25 年の運動を確信に

第 26 回定期大会松本議長挨拶

私たちは 25 年前、労使協調の連合路線に抗し、全労連と千葉労連を労働組合の三原則に基づき立ち上げました。三原則の一つは、一致する要求での団結と行動の統一、二つ目は、資本からの独立、三つ目は、政党からの独立です。戦後、全労連の前身の産別会議も初代全労連もアメリカと財界に潰されました。結成して 25 年経過したのは全労連だけです。このことをお互いに確信にしたいと思います。

さて、情勢はどうなっているのか。資本主義のシステムは限界にきています。小泉構造改革、アベノミクスの結果、一方の極に富が、もう一方の極に貧困が蓄積し、労働者の実質賃金が下がり、購買力が落ち、成長が止まる国になりました。この閉塞打開をめぐり、進歩と反動が激突しています。安倍政権は、憲法違反の集団的自衛権行使容認の閣議決定を行い、戦争する国づくりに暴走しています。また、世界で企業が一番活動しやすい国づくりを目指しています。それは、ただ働きの合法化、正社員ゼロ化、解雇自由の国づくりです。この攻撃の背景には、経済力と軍事力で世界支配をするというアメリカ戦略があります。私たちは安倍内閣打倒をかかげたかいます

リーマンショックと 3・11 大震災、原発事故により、一つの時代が終わり、新しい時代が始まっています。戦争も原発もお上に政治をまかせていたからひどい目に遭いました。これからは、私たち一人一人が声をあげ、行動して社会を変える時代です。運動と世論が情勢を切り開いています。今、県下各地で戦争する国づくり反対などの集会やデモ行進が網の目で広がっています。世界の流れは、戦争ではなく平和、貧困ではなく生活改善、独裁ではなく、民主主義の方向に向かっています。その流れを加速させるため、千葉労連運動をご一緒に発展させましょう。

代議員の発言

全労連・全国一般 本多剛さん

昭和ゴム、清掃、ゴルフ場やタクシーの労組で、たたかいが続いている。次世代委員会では「自ら学び、自ら育つ」と実践も含めた学習をすすめている。仲間を増やし、様々な課題をどう乗り越えていくか、学習しながら探求している。

千葉土建 向後三郎さん

組合員の多くは「組合員」になった自覚がない。どう組合活動に参加してもらうかが課題。まずは、家族ぐるみで参加できる企画をたて、組合に親しみを持ってもらうことが大事。

全教千葉 青木敏之さん

県内で教育への政治介入が強まっている。まともな歴史教科書が攻撃され、国歌斉唱しなかった教員に処分がされた。処分された教員の職場で開催される教育研究集会へ多数の参加を。

医労連 遠藤祐子さん

旭中央病院の宮本さん解雇争議が解決したことを報告し、御礼を申し上げたい。千葉労連の総力を注いでいただいたことで、高い水準で解決できた。今後は、地域医療や県内医療を充実・発展させるたたかいに全力をあげたい。

東葛労連 岩田一夫さん

地域労連の発展のために、労働運動の歴史を伝える重要性を感じている。東葛労連のキャンプが、今年は参加者不足で中止になった。今の課題が現れている。組合員の要求を正確に把握し、具体化することも求められている。

八千代労連 藤ヶ崎稔さん

革新懇が 2 周年を迎えた。安倍政権の暴走をストップさせる集会を行い 150 名の参加で成功。今年は地域メーカーを初めて開催し、この 1 年は団結し大きな成果を収めた。11 月 9 日には市民集会を行う予定。

市川浦安労連 田中長義さん

学習会を 3 回開催した。労働相談を行い、運輸、出版関係の 2 名がユニオンを立ち上げた。「わくわくフェスタ」を千葉土建市川支部と共催し 10 月 19 日に行う。市民と一緒に大きなとりくみにしていきたい。

女子部 飯倉紀代子さん

県の男女共同参画関連団体の登録について、昨年 8 月、女性部の団体登録を認めない通知がでた。抗議行動を行って女性部の強い要請が反映され、登録申請ができた。

波濤

子どもが二人ともミニバスケットボールチームに入っている▼サッカーや野球ほど人数がいなくても試合はできるが、昨今の少子化の中で、人数がなかなか集まらないため、4つの小学校までは合同でチームを作ることができるルールになっている。選抜チームのような合同チームができないよう4校という数になっているようだ。楽しくスポーツに取り組むには、ルールづくりとそのルールを守ることが求められる▼スポーツを応援する企業が増えている。社会的責任を果たす目的であれば、もう一步踏み込んで、ルールを守るといふスポーツの精神を反映して、労働関係の法律をきちんと守ることで社会的責任を果たしてもらいたい。



【2面】

代議員の発言

自治労連 寺田和正さん

6年前の解散危機以来、1名から23名に増員されたが、完全歩合の請負契約がほとんど。非正規雇用で成り立つ楽団があるのは、千葉県が遅れているということ。本物の芸術にふれる活動をもっと知ってもらいたい。

福祉保育労 山田悦子さん

来年4月、こども子育て支援新制度が実施される。市川では「充実をもとめる請願」を県に予算要望書を提出、声をあげる大切さを感じている。平等に保育されない危惧がある。保育は託児ではない。

千葉県国公 山谷修さん

7・8%賃下げ終了時に「公務員賃上げ」と労働者の分断をねらった報道があった。違法性を問う裁判は、10月30日に判決が出る。また、今年の勧告では、勤務場所によって賃下げとなる地域分断が持ち込まれようとしている。争議支援の裁判署名もそうだが、労働者の力を結集することが必要だ。

自治労連 片山敦史さん

県職労では、人員削減にも反対してきた。今年度削減をストップさせたが、15年間2千名の削減は、職場で様々なひずみを引き起こしている。時間外予算がないからサービス残業を強いる実態は、ブラック企業そのもの。公務の職場からもブラック企業根絶の運動に結集して、改善したい。

千葉土建 若菜義幸さん

五百人を超える建設労働者が、アスベスト被害で裁判闘争に取り組んでいる。アスベスト被害は、様々な業種に広がっている。早期解決を求めて、議会での意見書採択や国会議員への賛同も広がっている。全面勝利に向けた取り組みにいつその支援をお願いしたい。

東葛労連 青木宏泰さん

柏公園で 10 月 13 日 14 時からピースパレードが開催される。柏革新懇が中心に準備している。また、東葛国民救援会が中心になって 10 月 3 日に「アンネの日記」上映会がある。地域労連参加単組の組合つぶしに地域の多様な人たちと結びながら取り組みたい。

コープネットグループ労組 占部修吾さん

労働単価の切り下げが続いたが、人を雇うためには、これ以上下げられないので、2015 春闘は、賃上げ当然の要求で闘う状況になっている。また、賃金ランクの高い地域から一律最賃の運動を強め、地域格差をはねかえす低い地域の大幅最賃増に取り組むことが必要。

JMIU 金子政信さん

要求実現の鍵は数にある。しかし、最近の交渉では悪徳弁護士が間に入り、正常な労使関係が築けない。要求が実現しないと絶望して組合をやめる、組合解散に追い込まれる実態が生まれている。そこをどうするかが今後の課題。法定闘争や弁護士を訴えるくらいの迫力をもって取り組みたい。

千葉県国公 大友和弘さん

現在、国の事務権限を地方自治体に移譲することが進められてる。しかし、地方自治体も定員削減がすすみ人手不足が深刻であり、対応できるだけの体力がないことは明らか。国民生活に関わる非常に大きな問題として行政相談所を数十年ぶりに開設。多くの国民と行政の実態について対話をしていきたいと思っている。

自治労連 竹内敏昭さん

県内 45 の自治体を廻りながら懇談した中で、医療費の問題など、自治体とも要求が一致する事がたくさんあり、共同できる部分がある。10 月から独自のキャラバンを取り組んでいくと同時に、千葉労連のキャラバンで、公契約の取り組みを強めたいと思っている。

千葉土建 佐藤晋太郎さん

設計労務単価が 2 年連続引き上げられたが、現場はまだ安心して働ける賃金ではない。長年の重層下請け構造をなくすことが近々の課題。新規に労働者供給事業に取り組む。昨年 11 月に認可を受けた。千葉土建が多くの企業と労働者が安心して働ける雇用契約を結び、仕事不足の解消、労働条件の改善につなげていく。

年金者組合 岩崎勇さん

政府は社会保障費を見直しているが、政府がいう見直しとは、減らすということ。今の年金受給者だけではなく、将来受け取ることになる年金もこの延長線上にある。年金と暮らしを守る秋の大運動を進めていく。声をかけ、大いに楽しみながら運動をやり、社会のために貢献しようと呼びかけて運動していきたい。

郵政産業労働者ユニオン 岩井寛さん

郵政産業は 20 万人に及ぶ非正規雇用労働者がいる。労働契約法第 20 条の均等待遇を求め、現在裁判で闘っている。また民営化後の公共サービスの切り捨てがとてもひどい。人減らしが原因。14 春闘では地域や千葉労連の協力を得て、ストを大きく成功させた。さらに運動を強化していきたい。

郵政産業労働者ユニオン 吉村一成さん

仕事中に仲間とトラブルになり手をあげてしまい、2ヶ月の停職処分になった。しかしその後解雇されてしまった。二重処分であり、処分としても重すぎるものである。撤回させるために闘っている。支援を。

コープネットグループ労組 亀井貴子さん

介護ヘルパーは、一日に何軒もの家を周り、重労働を行う。賃金はとても安い。介護の仕事は誰にでもできると思われがちだが、実際はとても専門性が高い。なのに時給はほとんど上がらない。介護労働現場の改善を、最賃上げの運動とあわせて強めたい。